

幼児の科學疑問調査 (三)

六歳幼児の部

東京都立武蔵高等女學校

有元石太郎

こゝで云ふ疑問とは科學に關する疑問で、六歳幼児とは數へ年齢を指すのであります。筆者は前回に述べたと同様の手段方法によつて、六歳の幼児の口から偶然に出た疑問を記録しておいて集録し、或は集録して頂いたのが次の例でありまして、その内○印のものは殊に御注意して頂きたいと思つたものであります。

(一)人體に關する疑問

○一、なぜ人には男と女があるの(男兒一人・女兒一人)

一、お母ちゃんはいつ産れたの(女)

○一、なぜお父さんは赤ちゃんを産まないの(女)

一、女はなぜスカートをはくの(女)

一、大學生はなぜ角帽をかぶるの(男)

一、なぜ頭の毛は黒いの(女)

一、なぜ人には手があるの(女)

一、なぜ指には爪があるの(女)

○一、耳はどうして作つたの(女)

一、爪はどうして生えたの(男)

一、おできはどうして出来たの(男)

一、なぜ人は病氣になるの(男)

一、肩を叩くとどうして疲れがなほるの(女)

一、どうして夜だけ眠くなるの(男)

一、玉ねぎを切るとどうして眼が痛むの(女)

一、どうして汗をかくの(女)

一、なぜ人は着物を着るの(女三人)

一、なぜ暑いと帽子をかぶるの(女)

一、蜂に刺されるとなぜ痛い(男)

一、人はなぜ生きてゐられるの(男)

一、私が死ぬとどこへ行くの(女)

一、鳥には羽があるのに人間にはなぜないの(男)

一、鳥は飛べるのに人はなぜ飛べないの(男)

(二)天文に關する疑問

一、お日様はどうしてあるの(女)

一、お日様はどうして沈むの(男)

一、お日様はどうして暑い(女)

一、お日様はどうしてあかるいの(女)

一、どうしてお日様があるの(女)

一、お月様はどうして出るの(女二人)

一、お月様はなぜ黄色いの(男)

一、お月様はなぜ大きくなつたり小さくなつたりするの(男)

一、お月様はなぜ朝は白くなるの(女)

○一、お月様はなぜ私と一緒に歩くの(男)

一、お月様はなぜ落ちないの(男)

○一、お月様はお空で何をしてゐるの(女)

一、お星様はなぜ夜だけ出るの(男二人)

○一、星は生きてゐるの死んでゐるの(女)

一、空はなぜ高いの、行つて見たいなあ(男)

一、空はなぜ青いの(女二人)

(三)物象に關する疑問

一、電車はどうして動くの(男)

一、電車の上の火花はどうして出るの(男)

(男)

一、飛行機はどうして飛べるの(男兒二人)

一、うちわであほぐとなぜ涼しいの(女)

一、なぜうちわであほぐの(女)

一、自動車が通つたあとなぜぼこりがあがるの(男)

一、水を沸かすとどうしてお湯になるの(女二人)

(女二人)

一、どうしてガスが出るの(女)

一、どうしてゴムは伸びるの(男)

一、電氣はどうして明るい(女)

一、あんな小さい電燈からどうして明るい光が出るの(男)

一、どうして蓄音機が歌ふの(男)

一、ガラスはなぜすぎ通つてゐるの(男)

一、縋帯はなぜ白いの(女)

(四) 地文氣象に關する疑問

一、どうして雨が降るの(男兒二人、女兒一人)

一、雨がやんだのは空に水が無くなつたからなの(女)

一、川の水はどこから流れて來たの(男)

一、井戸水は汲んでも汲んでもあるのはどうして(男)

一、どうして水がはるの(女)

一、どうして山や川があるの(男)

一、雷はどうして鳴るの(男)

一、雷はどこから來るの(女)

一、風はどこから來るの(男)

(五) 動物に關する疑問

一、猫はなぜ鼠をとるの(女)

一、猫はニャンといつてなぜお話が出来ないの(男)

一、猫はおなかをさするとなぜ體を丸くするの(女)

一、狼はこわいのに造らなければよいのに(女)

一、なぜヘビは長い(女)

一、どうして魚は泳げるの(男)

一、ナメクジはなぜお鹽で溶けるの(女)

(六) 植物に關する疑問

一、なぜお花に花びらがあるの(女)

一、なぜお花には色々な色があるの(女)

一、ヒマワリは私の背を越すから(女)

一、レンコンになぜ澤山穴があるの(女)

一、なぜ木は伸びるの(男)

一、なぜ土の中から木が出てくるの(女)

以上六歳幼兒の科學疑問の類例を列擧しましたが、假りに五歳頃迄の幼兒を初期とし、六・七歳頃を後期とすれば、初期幼兒の質問と比べて後期幼兒の質問は内容も豊富になり、範圍も廣くなつてゐます。が、やはり前期と同一の質問も勿論見られますけれども、彼等の要求する回答は一段の飛躍を來してゐるのであります。その内容に理論的の答へを望み、初期と格段の差があるのであります。

さて吾々は幼兒から以上のやうな質問を受けた時、これに對してどれだけ科學的に満足な答へを與へることが出来るかは非常にあやしく、その疑問のうちには現代の科學では回答不可能の問題もあるのであります。然しそれは大人の世界から見たことでありまして、幼兒は幼兒らしい回答を要求してゐて決して大人のやうな回答を望んでゐません。六歳頃になると彼等は論理興味時代に入つてゐますから、「なぜ」といふ理由を知りたがるのであります。従つて大

人は始めてその事物現象の理由を何等かの形で、説明してやらなければなりません。しかし同じ六歳といつても、精神年齢が五歳位の者もあり、七歳位の者もありますから、その點を判断して取扱はなければならぬでせう。

今假りに「なぜ人には男と女とがあるの」と、六歳女兒が質問したとします。これに對して眞實の科學的回答が出来る者は學者といへどもありませんでせう。この場合幼兒に對して「それは知りません」と答へるのもこの時代の子供に對し、決して策を得た賢明の方法ではありません。

「それは神様がおつくりになつた」といつて格上げしても、「それはネズミがネンドをこねて作つたの」と格下げしても彼等は同じやうに満足するのでありますがこのやうな非科學的な答へをしても、彼等の科學心を阻害することはありませんけれど、彼等の科學の答ではありません。この時代の幼兒は概念が亂置されて、全く混淆するのでありますから、試みに逆に子供に質問してみますと、どんな難問でも答へます。混淆でも亂置でも差支ありませんから、むしろ出來

るだけ彼等に考へさせ、その亂置を正常化するやう取扱ふのが本年齡期幼兒科學疑問

幼稚園への希望

戦局が益々烈しくなつてまゐりますと、銃後の活動も一層活潑になり、従つて各家庭で子供のために費ひやすことの出来る時間もだん／＼豊なくなつてきます。

このやうな秋にあつての幼稚園教育は、平時よりもすつと責任が重大であります。

今までは、國民學校になれば、教育全般を學校まかせにしすぎのお母さん方も、幼稚園時代には、家庭で教育する方を主としてゐる傾向が強いやうでした。

しかし今では、却つてこれが反對になり、幼稚園時代こそ、子供の教育全部を幼稚園におまかせしてゐるやうであります。

これは人不足の上に、配給などで、ごこのお母さん方も家庭にちつととしてゐられなくなり、又家にあつても、ちつと子供をみつめて暮すことがむづかしくなつてきたから

取扱ひの要諦であります。

波多野勤子

であります。

毎日の生活におはれてしまつて、子供たちは、病氣さへしなければいゝ、といつた具合で放任されてゐるのであります。

しかし、教育は小さい中の方がよけい大切なことは申すまでもないことで、小さい間を無方針で育てられた子供は、これを立派な性格な人格に築きあげるのに非常に手数がかゝります。身體の方面でも、丈夫だと思つて、うか／＼育てた子供が、成長するにつれて、却つて弱くなつたといふ話は、あちこちでかかれます。私自身の経験でも、小さい時に手をぬいた——祖母が主として育て、くれた子供は、今だに、一番に面倒がかゝります。

そこで、現在のやうに主婦がいそがしい時には、幼稚園の先生方が、一層積極的に